

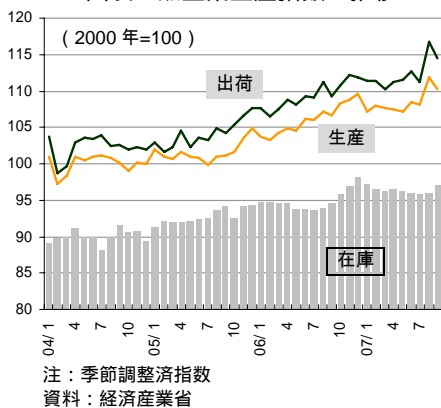
MRI Daily Economic Comment

Mitsubishi Research Institute, Inc.

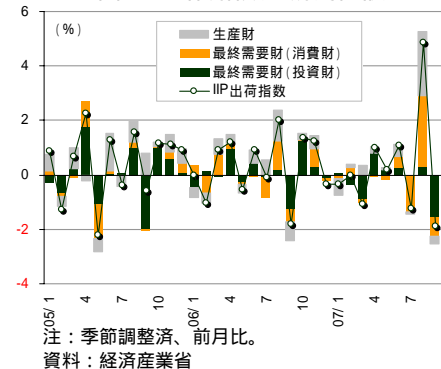
November 7, 2007

鋳工業生産（9月速報） - 反動減も拡大基調維持

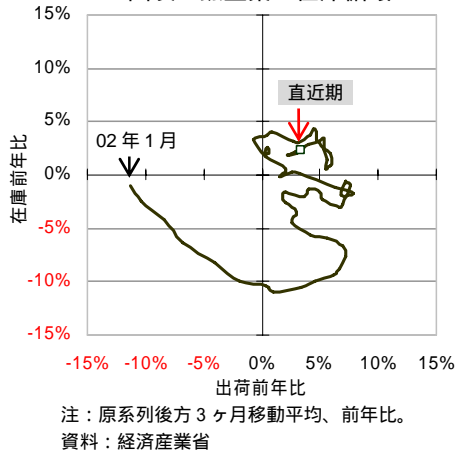
図表 鋳工業生産指数の推移



図表 出荷指数の財別内訳



図表 鋳工業の在庫循環



1. 概観

10月26日発表の経済産業省「鋳工業生産速報」によると、9月の鋳工業生産指数は、季調済前月比 1.4%の110.3と2ヶ月ぶりのマイナスとなった。ただし、同3.4%と大幅な伸びを示した前月の反動の要素が大きく、生産は引き続き緩やかな拡大基調にあるといえよう。7-9月期で均せば、前期比2.2%と3期ぶりの高い伸びとなっている。

ただし、懸念材料もある。国内向け投資財出荷の勢いが芳しくない点だ。建築基準厳格化のあおりを受けて建設財の減少が加速しているほか、これまで拡大傾向を維持してきた一般機械などの資本財についても一服感がみられる。05年以降、収益拡大を背景に企業は前がかりな投資を積み上げてきたが、需要の伸びが芳しくないなか、設備投資の拡大テンポを徐々に調整していく可能性がある。

在庫に関しては、電子部品・デバイス工業の在庫調整は進んでおり、鋳工業全体でも出荷と在庫のバランスは良好である。当面はこのバランスが容易に崩れる気配はみられず、在庫発の景気後退リスクは低い。

2. 先行きのシナリオ

景気の流れを下振れさせるとすれば、やはり米国経済の動向だろう。FRBの利下げ後も、相次ぐ金融機関の損失発表に市場は揺れている。住宅市場の在庫調整や株安がもたらす实体经济への下押し圧力は避けがたく、少なくとも来年1-3月期くらいまではサブプライムローン問題が尾を引くであろう。

米国経済に不透明感が漂うなか、頼みはアジア向け輸出と内需である。アジア向け輸出は引き続き拡大が見込まれ、内需も基本的には生産・所得・支出の好循環メカニズムを維持している。しかし、株安や食品・ガソリンの価格上昇から消費者マインドが弱含むなど磐石ではなく、景気下振れリスクには一段の目配りが必要な局面となっている。